



人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。
これは人間の仕事である。

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！



映画上映

医師中村哲の
仕事・働く
ということ

たましんRISURUホール
小ホール(立川市錦町3-3-20)

2025年
12月4日(木)
開場 17:30
開演 18:00
入場無料(予約制)

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也
写真・映像提供◎ベントワール会/PM5
企画・演出◎日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会
制作◎日本電波ニュース社 HD/16:9 カラー/47分



アフガニスタンとパキスタンで
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。

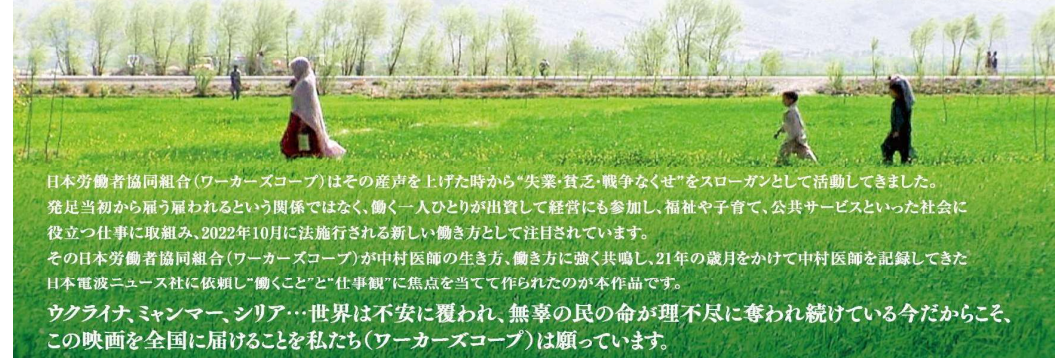
医師中村哲の
仕事・働く
ということ



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は「現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと」である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。中村医師は言う「これは人間の仕事である」



日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)はその産声を上げた時から“失業・貧乏・戦争なくせ”をスローガンとして活動してきました。発足当初から雇われるという関係ではなく、働く一人ひとりが出資して経営にも参加し、福祉や子育て、公共サービスといった社会に役立つ仕事に取組み、2022年10月に法施行される新しい働き方として注目されています。その日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)が中村医師の生き方、働き方に強く共鳴し、21年の歳月をかけて中村医師を記録してきた日本電波ニュース社に依頼し“働くこと”と“仕事観”に焦点を当てて作られたのが本作品です。ウクライナ、ミャンマー、シリア…世界は不安に覆われ、無辜の民の命が理不尽に奪われ続けている今だからこそ、この映画を全国に届けることを私たち(ワーカーズコープ)は願っています。

日時:2025年12月4日(木) 開場17:30 開演18:00
会場:たましんRISURUホール 小ホール(立川市錦町3-3-20)
参加費:無料(パシャワール会へのご寄付のご協力をお願いします)
申込:10月27日(月)10:00から
電話(042-529-8664)または右のQRコード



同時開催 追悼音楽会
♪女声コーラス・ビバーチェ
♪井上誠士郎(ギター弾き語り)

たましんRISURUホールへのアクセス
JR中央線立川駅南口 徒歩13分
JR南武線西国立駅 徒歩7分
多摩モノレール立川南駅 徒歩12分
お問い合わせ
042-529-8664(第三月曜除く8:30~17:00)
運営
立川市子ども未来センター 子育て支援事務室